

## 特集

# 心の花歌語事典

二〇二三年二月に「心の花」は創刊百二十五年を迎えます。佐佐木信綱が唱道した「ひろく、深く、おのがじしに」の精神は明治・大正・昭和・平成・令和の五つの時代の中で脈々と受け継がれ、それぞれの時代の歌壇に新風を吹き込んできました。この度、「心の花」では創刊百二十五周年を記念して誌上に「心の花歌語事典」の特集を組むことになりました。本特集では「心の花」の歌人の作品を対象とし、二十四の

テーマで各五十首を選び、その歴史を振り返ります。担当者はそれぞれの時代の歌集や誌上から選んだ作品をテーマに即したキーワードで分類しています。

特集タイトルの「歌語」とは短歌で用いられる特殊な言葉という意味ではありません。近代以降の短歌は固定化した歌語ではなく広く一般の言葉で詠まれるようになりました。それを踏まえ本企画では、「歌語」を短歌に採用された言葉すべてであると考

えています。俳句には「歳時記」があり、それが創作の一つの契機になっています。本特集が、「心の花」の歌人と作品を読み継ぐとともに、それぞれの作歌の一助となることを祈っています。

「心の花歌語事典」編集チーム

田中拓也

清水あかね

奥田亡羊